

## パート I. 父なる神は移住者の神

### はじめに：

#### 1. 時代背景

- (1) 「ディアスポラ研究」は、世界のグローバル化に呼応して 20 世紀後半に発展
  - ① 「ディアスポラ」は、経済的要因やキャリア向上などの理由で自発的に自国を離れる人たちを指す。
  - ② さらに、国際紛争に伴う難民の問題が急浮上してきている。
  
- (2) 「ディアスポラ」という用語を一般化することの問題点
  - ① 「ディアスポラ」とは、本来離散の地に住むユダヤ人たちを指す言葉である。
  - ② 「ディアスポラ」は、ユダヤ人の歴史と深くかかわった用語である。
  - ③ そこには、強制移住と祖国への帰還の願いという 2 つの要素がある。
  
- (3) 「マイグレーション」という用語の方がふさわしい（「移住者」、「寄留者」など）。
  - ① グローバル化する世界が直面するチャレンジのひとつが、多文化共生である。
  - ② グローバル化は、国家という枠組みの正当性の再吟味を迫っている。
  - ③ ちなみに、日本は、在留外国人の扱いに関しては後進国である。

#### 2. クリスマンとグローバル化

- (1) 国内宣教と海外宣教の区別が徐々に意味をなさなくなってきた。
  - ① 聖書的には、ユダヤ人伝道と異邦人伝道が本来の区別である。
  
- (2) 私たちは今、大きなチャレンジを受けている。
  - ① 海外邦人への伝道
  - ② 在留外国人への伝道
  - ③ クリスマンとなって帰国する人々との共生
  - ④ クリスマンの在留外国人との共生
  
- (3) このメッセージの目的
  - ① 聖書の神のご性質を確認する。
  - ② 人類救済の歴史がどのように展開されてきたかを確認する。
  - ③ そこから読み取れる諸原則を、現代の状況に適用する。

#### 3. 三位一体の神

- (1) 一般啓示によって神の存在を認識することができる。
  - ①しかし、神の特性や救いの方法は、特別啓示がなければ知り得ない事項である。
- (2) 三位一体という神概念も、特別啓示によって明らかにされる。
  - ①聖書は、神の単一性を主張する。
  - ②聖書は、神の複数性（3つの位格）を主張する。
    - \*父なる神、子なる神、聖霊なる神
- (3) 三位一体という神概念を否定すると、救済論が崩壊する。
  - ①三位一体の神の3つの位格が、すべて救済計画に関わっている。
  - ②クリスチャンの祈りは、三位一体という神概念を土台としている。

#### 4. メッセージのアウトライン

- (1) アブラハムの召命
- (2) エジプトへの移住
- (3) バビロン捕囚

このメッセージは、父なる神が移住者の神であることを学ぶものである。

#### I. アブラハムの召命

1. 人類の3つの失敗（創1～11章）
  - ①創3章：エデンの園でのアダムの失敗
  - ②創6～8章：ノアの時代の人類の失敗
  - ③創11章：バベルの塔事件での人類の失敗
2. 創12章から、新しい人類救済計画が始まる。
  - ①これ以降、ひとりの人、ひとつの民族に焦点が絞られる。
  - ②父なる神は、アブラハム（アブラム）に父の家を出て約束の地に行けと命じた。
  - ③アブラハムの選びは、普遍的救いをもたらすための「方法の選び」である。
3. 創12：1～3

Gen 12:1 【主】はアブラムに仰せられた。／「あなたは、／あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、／わたしが示す地へ行きなさい。

Gen 12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、／あなたを祝福し、／あなたの名を大いなるものとしよう。／あなたの名は祝福となる。

Gen 12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、／あなたをのろう者をわたしはのろう。／  
地上のすべての民族は、／あなたによって祝福される。

(1) アブラハム契約は、これ以降の聖書を読み解く大原則である。

①アブラハム契約の啓示は、徐々に行われる。

(2) この契約には、3つの祝福が伴っていた。

①土地の約束

②子孫の約束

③祝福の約束

(3) アブラハムは3度、「神の友」と呼ばれている。

①2歴 20 : 7

②イザ 41 : 8

③ヤコ 2 : 23

(4) 「神の友」としての歩みは、分離から始まる。

①分離のための分離ではなく、祝福をもたらすための分離である。

②「行きなさい」は「レフ レハ」である。「あなたのために行け」という意味。

#### 4. 個人から民への展開

(1) 最初は、アブラハムという個人の選び。

(2) それが、民族の選びに発展していく。

①アブラハム、イサク、ヤコブ

②ユダ族、ダビデの家系

③メシア

(3) これは、全人類を救うための選びである。

①ペテロはペンテコステ以降のメッセージで、創 12 : 3 を引用（使 3 : 25）。

②パウロは、創 12 : 3 と異邦人の救いを結び付けている（ガラ 3 : 8）。

## II. エジプトへの移住

1. この移住は、イスラエルの民が霊的危機に直面していた時に起こった。

(1) 創 37 章で、ヨセフはエジプトに売られた。

①ヨセフの夢と兄たちのねたみ

(2) 創 38 章で、ユダは息子の嫁のタマルによってペレツとゼラを得た。

①契約の民とカナン人の同化が始まっている。

②このまま放置するなら、契約の民はカナン人の文化に飲み込まれてしまう。

(3) 創 39 章以降、エジプトでのヨセフの生活が描写される。

①ヨセフは、契約の民がエジプトに移住するためのブリッジとなった。

2. 契約の民は、寄留地において祝福を受けた。

(1) ヨセフの知恵により、イスラエルの民はゴシェンの地に住むことになった。

①エジプトの文化や宗教からは隔離された地

②純粋培養によって一大民族に成長することが可能な地

(2) 寄留地は、やがていつか去らねばならない。

①ヨセフを知らない王の出現。

②エジプトは、反ユダヤ主義を国策として採用する国となった。

3. 出エジプトの出来事は、約束の地への移住物語である。

(1) 出 1～14 章

①契約の民は、アブラハム契約が有効に機能していることを学んだ。

②出 2 : 24～25

**Exo 2:24 神はその嘆きを聞き、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。**

**Exo 2:25 神はイスラエルの人々を顧み、御心に留められた。**

③モーセが解放者として立てられた。

④種々のわざわいや奇跡を通して、神の主権と力が啓示された。

(2) 出 15～24 章

①荒野の放浪の中で、神が必要を満たしてくださる方であることを学んだ。

②マナは、天から下ったいのちのパンの予表となった。

③岩から出る水は、聖霊の予表となった。

④シナイ契約により、モーセの律法が与えられた。

⑤出 20 : 2～3

**Exo 20:2 「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。**

**Exo 20:3 あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。**

\*律法に従えば祝福を受け、違反すれば呪いを受ける。

\*律法を完全に守ることは不可能である。

\*律法は、契約の民をメシアに導く養育係となった。

⑥シャカイナグローリー（雲の柱、火の柱）に導かれた。

(3) 出 25～40 章

①幕屋建設を通して、神は移住者とともに移動する神であることを学んだ。

\*幕屋は、移動式の礼拝施設である。

②幕屋は、聖なる神に近づく方法を契約の民に教えた。

\*礼拝の方法

③至聖所の中に契約の箱が置かれた。

\*その上に、シャカイナグローリーが輝いた。

④いけにえの動物は、究極のないけにえ（神の小羊）の予表となった。

\*きずもしみもない神の小羊

### Ⅲ. バビロン捕囚

1. この移住は、契約の民の危機の物語である。

(1) 預言者たちの預言

①【主】への反抗と偶像礼拝を続けるなら、神の裁きが下る。

②それは、捕囚という形で下る。

③しかし、やがて捕囚から約束の地に帰還するようになる。

④エレ 25 : 11～12

**Jer 25:11 この国は全部、廃墟となって荒れ果て、これらの国々はバビロンの王に七十年仕える。**

**Jer 25:12 七十年の終わりに、わたしはバビロンの王とその民、——【主】の御告げ——またカルデヤ人の地を、彼らの咎のゆえに罰し、これを永遠に荒れ果てた地とする。**

\*前 605～536 年

2. バビロン捕囚と神の契約の関係

(1) バビロン捕囚とシナイ契約

①モーセの律法に違反するなら、神の裁きが下る。

(2) バビロン捕囚とアブラハム契約の民

- ①捕囚からの帰還は、アブラハム契約の条項に基づくものである。
- ②神の裁きは、契約の民を矯正するためのものである。

3. 契約の民がバビロン捕囚から学んだ教訓とは何か。

(1) 信仰が本物かどうか、ふるいにかけてられた。

①帰還した民は、神殿を再建した。

②エズラの指導により、霊的リバイバルが起こった。

(2) 契約の民は、2度と偶像礼拝に陥ることがなくなった。

4. 次の移住は、神のご自身の移住である。